

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500704		
法人名	NPO法人ヒューマンネット大地の翼		
事業所名	グループホームうぐいす		
所在地	福岡県宮若市本城1104番地		
自己評価作成日	平成26年11月26日	評価結果確定日	平成26年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小人数のため、まとまりがあり、行き届いた介護が出来ていると思います。苑では野菜や花の成長で季節の移り変わりを感じて頂き、また月2回の音楽ボランティアではピアノの伴奏に合わせて歌の練習をしています。曲は利用者様からのリクエストや童謡、軍歌、歌謡曲とジャンルは幅広く、毎月曲を変えて歌っています。毎月の家族会では必ず家族だけの話し合いの時間を設け、率直な意見を頂いています。また会議や日々の触れ合いの中で積極的にコミュニケーションを取り、家族との信頼関係が築けるように努力しています。利用者様にはなるべく外出の機会を設け、初詣から始まり季節ごとに花見に行ったり、園内では貼り絵や今年初の運動会をしました。誕生会では気に入ったドレスを選んで頂き、化粧、髪を整えドレスアップし、本人はもとより家族も一緒にとても感動されてます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームうぐいすは、毎朝理念を唱和する職員と一緒に、居間で寛ぐ入居者も理念を口ずさみ、和気藹々とした雰囲気の中で一日が始まっている。入居者と職員の4人一組で取り組んでいる貼り絵づくりは、入居者のより身近な情報を把握する好機となり、個性のある介護計画の作成に発展している。入居後も習慣となっている日記をつけることや編み物が継続できるように支援したり、訪問診療と訪問看護、家族、職員、他の入居者が一体となって支援している看取りは、入居者と家族の希望を叶えるとともに、介護者の励みとなっている。そして、地域に暮らす一員として公民館での敬老会に全員参加し、三年連続で最高高齢者表彰を受けている。運営推進会議には地域の知見者の参加も多く、地域に開かれた運営で、今後もさらなる理念の具現化で地域に密着したサービスが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	58	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	59	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	60	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホームうぐいす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	壁に掲示し、毎日朝礼時に理念を唱和し、確認をしている。	毎朝、事務室入口に掲示された理念を唱和する職員と一緒に、居間で寛ぐ入居者も理念を口ずさみ、和気藹々とした雰囲気の中で一日が始まっている。管理者と職員は自然体で理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板等の情報で行事に参加している。盆踊りでは物故者に対して黙とうを捧げて供養して頂いた。	自治会加入を継続している。地域清掃、敬老会、盆踊り等地域行事に参加して、地域の一員として受け入れられている。敬老会に車椅子で参加する入居者もあり、最高年齢者として花束贈呈を3年連続で受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年の敬老会参加を通し、本城区公民館の好意により公民館トイレをバリアフリーにして頂いた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回必ず運営推進会議を行い、情報を提供し共有している。また、行政参加も必ずお願いしている。	市担当者、区長、消防署、警察、民生委員、入居者家族が参加している。年間の会議テーマを決め、3カ月毎発行する「うぐいすだより」の配布や事業等を報告し、参加者からの意見をサービスへ反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いたり、電話で不明な点を尋ねたり、サービスの向上につなげている。	市役所が近く利便性も高い。地域包括支援センターより空室の問い合わせがあったり、地域同業者協議会のGHみやわか主催の研修開催場所の便宜を図ってもらうなど、情報交換や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアを心がけているが、現状ではやむを得ず、玄関を施錠している時間もある。	施錠が身体拘束につながることは、全職員が十分に理解しているが、外出傾向が強い入居者の安全を職員の目配り、気配りだけでは確保できない場合は、玄関に施錠をして対応している。また、外出がしたい気持ちを汲んで、職員と一緒に散歩するなどの工夫をしている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したり、小さな事でも虐待につながる事をミーティング等で話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	GHみやわか研修で権利擁護を学び、ミーティングで職員に周知している。玄関にパンフレットを置き、相談があった時はいつでも活用出来る様にしている。	現在は制度を利用する入居者はいない。管理者と職員は制度等を理解し、パンフレットが玄関に備えてあり、誰でも閲覧できて、家族からの相談に応じれる状態になっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明や内容の変更の度に文書で説明し理解して頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回家族だけで話し合う機会を設け、意見や要望を出して頂いている。	毎月開催している家族会には、半数以上の家族の参加がある。看取りを経験した家族が会長を務め、家族同士で想いを話し合うのを楽しみにしている。家族だけの集いの後、理事長や管理者が参加して、希望や意見を聞き、運営の参考にしている。会議記録も整備されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングには毎回殆どの職員が参加し理事長や管理者と直接意見を言える機会を設けている。	毎月のミーティングには理事長が参加して職員と意見交換している。徘徊や異物を口に入れる入居者の安全に配慮した物品整理の工夫やキヤスター付きクレンジングシャワーの購入、ひじ掛けを取り外せる車椅子、病院からベットの受け入れなど職員の意見を運営に取り入れ、サービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員も少しづつ年齢が増したため、休息のため休みを月に1日増やした。利用者が高齢で入退院を繰り返すため給与には反映しにくい。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。休みの要望を極力聞き、病院受診や家族との触れ合い、趣味へと時間を活用してもらっている。	定年制度はなく、健康で本人の希望があれば勤務できる。現在は男性職員1名を含む、40代から60代の職員が就労している。ここ2年間は、離職者はなく「職員の幸せなくして、入居者の幸せなし」を心に刻み、職員同志、生き生きと勤務している。資格取得を支援し、勤務時間に配慮している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月のミーティングや朝礼でいつも入居者の立場に立ったケアや言葉かけを確認している。	市や福祉事務所から、人権研修会の情報がある。理事長は自らが入居者の立場で物事を考え、職員にも教育している。職員も入居者の表情や会話のなかでそれが守られているかを評価している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修やGHみやわか、Fブロック研修などにも参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	FブロックやGHみやわかの毎月の研修で交流を図っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は本人や家族との話し合いの時間をなるべく多く作っている。自室に入り傾聴することも多い。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みなどを出来る限り聴いて信頼関係を築くことに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り他の施設などの情報も入れ、本人にとってより良い支援に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事をしたり、利用者様の悩みなども聴くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会をお願いをし、毎月の家族会で他の家族との交流や夏祭り、餅つき大会で家族との絆を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年付き合ってきた友人の面会があったり、家族との外出を出来る限り支援している。	タクシーで馴染みの人が訪れることもあり、居室や居間で談笑している。入居後は、入居者同士がお互いの居室を行き来したり、居間ではお互いを気遣い親しく交流するなど、馴染の関係づくりを支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の仲を把握し、柔軟に対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や行事の案内をしている「時々懐かしい」と尋ねて下さることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人から意向を確認している。困難な場合は家族からの意向に沿い、本人の思いを察するようにしている。	病院のソーシャルワーカーや地域のケアマネジャーとの情報交換を密にして、入居前の状況把握に努めている。本人、家族と管理者、ケアマネジャーの面談で把握した希望や意向の記録を、全職員で共有している。入居後も習慣となっている日記をつけることや編み物が、継続できるように支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に出来るだけ詳しく生活歴等を聞くようにしている。また面会等で得た、新たな情報もアセスメントに書き入れ、ミーティングで周知している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや介護記録等からその方の体調はもちろん、表情や言動などから現状を把握するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで職員からの気づいた意見や本人、家族の意向を取り入れ、介護計画を作成している。また必要時には見直したり、3か月毎に見直しをしている。	入居者と職員の4人一組で取り組んでいる貼り絵づくりは、入居者のより身近な情報を把握する好機となり、個別性のある介護計画を作成している。毎日のケア内容をサービスチェック表で確認し、毎月のモニタリングで介護計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や介護日誌にその日の出来事を記録し職員から得た情報で毎月モニタリングし、計画の見直しをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて計画を見直している。問題点があれば上司に相談し、皆で解決出来る様話し合っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ季節の移り変わりを感じて頂ける様花見、紅葉狩り、案山子見学などの地域資源を利用し、楽しんでもらっている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を優先し、往診をして頂いたり家族と連携して受診を心掛けている。	入居前のかかりつけ医である5カ所の病院、診療所との連携や、訪問看護ステーションとも連携している。看護職員が介護記録や職員の気づきを把握して、入居者の健康管理をしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録に些細な変化も記録し、対応などを相談したり、看護職員と連携を図っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは日頃より良好な関係を作り、入退院時には密接に情報交換している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明は勿論、看取りに関しては早い段階から家族会等で説明を行い、日々の様子は職員が全員周知支援している。	終末期生活支援契約書が整備され、入居時に説明している。状況の変化毎に、家族、主治医と話し合いが行われ、家族の同意を得ている。終末期には夜間は職員を2名体制にしたり、家族の泊まり込みもある。家族、職員、他の入居者の声かけ等一体となった看取りは職員の励みにつながっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティング等で定期的に訓練を行っている。また症状別の対処方法を掲示し、すぐに対応出来る様にしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にも取り入れ、地域の方々とも一緒になって取り組んでいる。	運営推進会議開催と併せて、年2回避難訓練を実施しており、両隣の方々に声をかけて、協力をお願いしている。参加者全員が消火器訓練をしたり、夜間を想定した訓練も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から言葉かけや対応には気を付けているが、職員同士気づいた事はその場で注意合っている。	入居者全員を名字で呼んでいる。入居者と職員が家族のような声かけがなされ、相手を気遣った会話が、ホームの穏やかな雰囲気を醸し出している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り声掛けをしたり、傾聴を行い、本人の思いや希望を理解し、支援出来る様(家族とも連絡し)努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、入浴など本人のペースに合わせる様支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃は本人の希望に沿って、身だしなみが出来る様に、外出時はお化粧をしたり、おしゃれが出来る様支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好き嫌い等を把握し、利用者様の誕生日、旬の素材や当ホームで採れた野菜を使い、利用者様にも用意(皮むき)をして頂いている。	玄関脇に菜園があり、季節の野菜を職員と入居者が栽培している。野菜の成育や食卓で味わう楽しみを作っている。入居者と職員は同じ食卓を囲み食事をしている。退院後はミキサー食だった入居者が、現在はきざみ食となり、食欲が出てきたことをまわりの全員が喜んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	表を作成し、記入することで状況を把握しながら、声掛け、介助等その方に応じた支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じた口腔ケアの仕方を訪問歯科から指導を受け、毎食後、その方に合った歯ブラシ、スポンジブラシ、ガーゼ等を使い口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自に合った排泄方法で対応している。特に退院後の利用者様の後退している。排泄の自立を根気よく支援している。	食事や水分管理で、10年来の便秘が改善した入居者があり、本人と家族が喜んでいる。リハビリパンツ着用や車椅子利用者にも適切な声かけやトイレ誘導で対応している。トイレは車椅子対応に十分な広さがあり、L字型手すりを設置している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘によっては個々の差があるが、繊維質の食べ物を提供したり、毎日ラジオ体操を2回行い、運動を働きかけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿って支援している。	毎日入浴出来る準備をしている。週に2回から3回入浴が計画され、昼食後の暖かい時間帯に支援を受けて入浴している。重度化した入居者にはキャスター付きリクライニングシャワー椅子で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に合わせて、活動量を調整し、休息したり、安眠出来る様支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬一覧も各利用者ごとにファイルしてあり、いつでも確認出来る様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年続けてきた趣味や楽しみごと等を継続してもらい、張りのある生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は出来るだけ戸外に出る様支援、気候の良い時は花見や紅葉狩りに出ている。家族の支援を受け、実家へ帰ったりしている。	天気の良い日にはベランダでの外気浴を声かけている。朝日を浴びるれるベランダでのお茶は好評である。花見や紅葉狩りには家族の参加もあり、入居者全員が参加している。ホームの近くは商業地域で、好みの化粧品購入に職員が同伴している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時など、ご本人の状況によってお金を持参して頂き、お好きな物を買物して頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話を取り次いだり、また本人から家族に電話をかけたり、自室に直通電話をつけている利用者様もいる。手紙が書ける様声掛け、励まし、ポスト投函等援助している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の言動を反映しながら、自然の風や光を取り入れたり、カーテンやエアコン、空気清浄機等も使用している。季節の花を飾り、壁には季節を感じる掲示物を飾っている。	玄関から事務所、オープンキッチン、居間が見渡せ、職員がどこにいても目配りができる間取りになっている。壁には、お誕生日に正装した入居者の写真が飾られている。居間は居間で寛ぐ入居者も多い。居間にあるピアノでは月2回元音楽教師がボランティアで歌唱指導しており、入居者と職員の楽しみになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには椅子やソファを置き、ベランダや玄関にも設置し、自由に居場所を選んで過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が大切にされていた使い慣れた筆筒を持ってきて頂いたり、家族の写真を飾ったりしている。和室を好む方には置いている。	居室は「私の部屋よ」という雰囲気、部屋の模様替えをしたり、職員と共同作業で作成した貼り絵が飾られている。希望や身体状況に合わせて、ベットや畳敷きが用意されている。掃き出しの窓からホームの菜園が見える居室もあり、開放的である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは手すりを設置し、トイレは分かりやすい言葉で書いている。各部屋には表札を置いている。		